

# 地域振興県土警察常任委員会資料

(平成30年10月11日)

- 1 第73回国民体育大会における鳥取県選手団の結果について  
【スポーツ課】・・・ 1ページ
- 2 2巡目国体について  
【スポーツ課】・・・ 4ページ



# 第73回国民体育大会における鳥取県選手団の結果について

平成30年10月11日  
スポーツ課

福井県（一部石川県、静岡県）で開催された第73回国民体育大会「福井しあわせ元気国体2018」に参加した本県選手団の成績について報告します。

## 1 概要

- (1) 参加者数
  - ・本部役員19名
  - ・監督、選手、トレーナー366名
- (2) 成績
  - ・正式競技40競技の鳥取県選手団獲得得点751点（参加得点400点、競技得点351点）
  - ・男女総合成績（天皇杯）40位、女子総合成績（皇后杯）38位

## 2 総括

- 天皇杯順位は昨年から2つ順位を上げ、競技得点は第69回大会以降5年連続で300点を超えたが、目標とする天皇杯順位30位台にはあと一步であった。
- 会期前の水泳、開会式直前の自転車競技で高得点を獲得し、その後の各競技選手団にとって励みとなった。
- 水泳、陸上競技、レスリング、セーリング、カヌーにおいて、昨年の6種目を上回る9種目で優勝を飾った。また、お家芸のボート、相撲も得点源となった。
- 3位に躍進したアーチェリー少年女子のほか、わかとり国体以来33年ぶりに出場したホッケー少年男子が5位初入賞、馬術競技が4種目で7年ぶりの入賞、トライアスロン成年男子が参加選手2名とも入賞するなど、それぞれ今後に繋がる結果であった。
- 成年が近年では最高の169.25点（昨年154.5点）を獲得し、5年連続の100点超えを果たした。4連覇を果たしたカヌーの福本選手、2連覇を果たしたセーリングの瀬川選手をはじめ、陸上競技の鍛冶木選手、レスリングの岡選手らベテラン勢やふるさと選手が活躍した。
- 天皇杯30位台の定着に向け、引き続き環境整備に努めるとともに、ジュニア育成をしっかりと行いつつ、成年にうまく繋げるよう関係者と力を合わせ取り組んでいく。

## 3 年度別競技得点及び総合成績

区分	68回 (H25) 東京	69回 (H26) 長崎	70回 (H27) 和歌山	71回 (H28) 岩手	72回 (H29) 愛媛	73回 (H30) 福井
少年	151.5	238.0	220.0	204.25	197.0	181.75
成年	68.5	152.0	102.5	149.25	154.5	169.25
合計	220.0	390.0	322.5	353.5	351.5	351.0
総合成績	45位	38位	40位	42位	42位	40位

## 4 競技別競技得点

※弓道（少年）は台風の影響により、ベスト8がすべて1位の措置

競技名	競技得点	入賞種目数	順位								
			1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	
陸上競技	29	6	2	1					1	1	1
水泳	29	6	1	2					2		1
ボート	32	3			1		1			1	
ホッケー	20	1					1				
レスリング	17.5	3	1	1			1				
セーリング	29	2	1	1							
ウエイトリフティング	2	1									1
自転車競技	22	2		1		1					
相撲	30	1			1						
馬術	17	4		1		1	1				1
弓道	49.5	4	※3						1		
ライフル射撃	2	1								1	
山岳	9	1							1		
カヌー	36	7	1	1		1	4				
アーチェリー	18	1			1						
トライアスロン	9	2		1						1	
合計	351点	45種目	9	9	3	3	8	5	5	5	3

## 5 入賞状況（別表のとおり）

第73回国民体育大会「福井しあわせ元気国体」入賞者一覧（競技別）

会期	《冬季大会》	スケート競技（山梨県）	平成30年1月28日（日）～ 2月 1日（木）
		アイスホッケー競技（神奈川県）	平成30年1月27日（土）～ 2月 1日（木）
		スキー競技（新潟県）	平成30年2月25日（日）～ 2月28日（水）
	《会期前》	4競技（福井県・石川県）	平成30年9月 9日（日）～ 9月17日（月）
	《開会式直前》	1競技（福井県）	平成30年9月25日（火）～ 9月29日（土）
	《本大会》	33競技（福井県・一部県外開催）	平成30年9月29日（土）～10月 9日（火）
		※会期前と本大会で1競技重複	開催競技は40競技

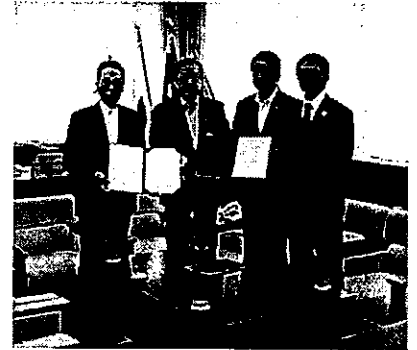
競技名	種別	種目	順位	競技得点	個人・団体名（所属）	
陸上	成年男子	400m	8	1	池田 弘佑（鳥取大学）	
		110mH	6	3	藤井 亮汰（順天堂大学）	
		400mH	1	8	鍛冶木 峻（住友電気工業）	
		やり投	2	7	小椋 健司（日本体育施設）	
	少年男子B	100m	1	8	井上 瑞葵（県立鳥取中央育英高等学校1年）	
	少年男子共通	800m	7	2	中井 啓太（鳥取城北高等学校3年）	
水泳	競泳	少年男子A	50m自由形	2	7	本田 海雅（米子北高等学校3年）
		100m自由形	6	3		
		成年女子	100m平泳ぎ	2	7	石田 華子（日本体育大学）
		少年女子A	200m平泳ぎ	6	3	平林 優花（米子北高等学校2年）
	飛込	成年女子	飛板飛込	8	1	清水 咲（筑波大学）
		少年女子	飛板飛込	1	8	三上 紗也可（県立米子南高等学校3年）
ボート	成年男子	ダブルスカル	5	12	古田 直輝（明治大学） 境 凌輔（明治大学）	
	少年男子	シングルスカル	7	2	梶谷 啓介（県立米子工業高等学校3年）	
		ダブルスカル	3	18	寺井 昇平（県立米子東高等学校3年） 中務 竣護（県立米子東高等学校3年）	
ホッケー	少年男子		5	20	道端 良（県立八頭高等学校3年） 中嶋 直人（同3年） 小林 凱皇（同3年） 垣屋 仁（同3年） 中口 騰真（同3年） 平木 創大（同3年） 池ノ内 拓磨（同3年） 毛利 真也（同2年） 山中 基矢（同2年） 佐藤 瑠星（同2年） 中西 星陽（同1年） 安部 優真（同1年） 井上 皓介（同1年）	
レスリング	成年男子	グレコローマンスタイル 77kg級	2	7	前田 祐也（県立鳥取中央育英高等学校）	
		グレコローマンスタイル 87kg級	1	8	岡 太一（自衛隊体育学校）	
	少年男子	グレコローマンスタイル 60kg級	5	2.5	辻村 海聖（県立鳥取中央育英高等学校2年）	
セーリング	成年男子	レーザー級	1	8	瀬川 和正（鳥取県体育協会）	
	成年女子	セーリングスピリッツ級	2	21	山本 佑莉（鳥取県地域振興部スポーツ課） 木村 沙耶佳（鳥取県地域振興部スポーツ課）	
ウエイトリフティング	成年男子	56kg級（スナッチ）	7	2	錦織 亮（明治大学）	
自転車競技	成年男子	ケイリン	2	7	山根 将太（中央大学）	
	男子	チーム・スプリント	4	15	金田 聡士（鳥取県地域振興部スポーツ課） 山根 将太（中央大学） 保田 浩輔（中央大学） 池田 倫之（県立鳥取西高等学校1年）	

競技名	種別	種目	順位	競技得点	個人・団体名(所属)	
相撲	少年男子	団体	3	30	當眞 嗣斗(鳥取城北高等学校3年) 藪ヶ崎 蓮斗(同3年) 須藤 直(同3年) 志戸 俊輔(同2年) 小関 拓道(同2年) アリュナーダワーニンジ(同2年) 向中野 真豪(同1年)	
		個人	5	-	アリュナーダワーニンジ(鳥取城北高等学校2年)	
馬術	成年女子	ダービー	8	1	山林 真由美(ミネベアミツミ)	
		トップスコア	5	4		
	少年	団体障害飛越	2	7	青戸 友紀子(県立米子東高等学校3年) 本田 萌果(米子松蔭高等学校2年) 青戸 彬真(米子市立尚徳中学校3年)	
		トップスコア	4	5	青戸 彬真(米子市立尚徳中学校3年)	
弓道	成年女子	近的	6	9	矢野 郁美(鳥取市立福部保育園) 種田 薫(かいけ心正こども園) 小原 綾佳(鳥取県体育協会)	
	少年男子	近的	1	13.5	東本 永遠(県立倉吉西高等学校3年) 田熊 健太(県立倉吉西高等学校3年) 田中 佑樹(県立米子工業高等学校3年)	
		遠的	1	13.5		
	少年女子	遠的	1	13.5	絹見 翼(県立倉吉西高等学校3年) 石笠 のあ(県立倉吉西高等学校3年) 西 菜央(県立倉吉西高等学校2年)	
ライフル射撃	成年女子	10mS40W	7	2	中口 遥(同志社大学)	
山岳	成年男子	リード	6	9	高田 知堯(鳥取県体育協会) 河上 紘輝(神奈川大学)	
カヌー	少年男子	スプリント K-1	200m	5	4	竹内 祐太郎(県立倉吉総合産業高等学校3年)
	成年女子	スラローム K-1	25G	4	5	遠藤 絵里子(みのぶ観光センター)
			15G	5	4	
		スラローム C-1	25G	5	4	福馬 つばさ(早稲田大学)
			15G	5	4	
	ワイルドウォーター K-1	1500m	2	7	福本 かな子(県立皆生養護学校)	
スプリント		1	8			
アーチェリー	少年女子	団体	3	18	坪倉 麻衣(米子北高等学校3年) 高島 美純(米子北高等学校2年) 山本 志織(県立米子南高等学校2年)	
トライアスロン	成年男子		7	2	岩本 敏(流通経済大学)	
			2	7	小原 北斗(流通経済大学)	
計				351		

## 2 巡目国体について

平成30年10月11日  
ス ポ ー ツ 課

本県では、島根県との間で施設・人員等で相互に協力しながらそれぞれの国体を開催すること（協力開催）を前提とした国体等招致を目指していますが、できるだけ早く決めてほしいとの競技団体の声や、市町村を含めた財政負担の問題、人材協力の可能性も踏まえ、協力開催の中身を島根県と具体化させていく必要があることから、島根県に歩調を合わせて国体等の招致に向かいたいと考えています。



### 1 県体育協会等の動き

- ・9月18日 県体育協会・県障がい者スポーツ協会がそれぞれ国体招致要望・全国障害者スポーツ大会招致要望を決議
- ・10月5日 県体育協会、県障がい者スポーツ協会が、議長・知事・教育長へ国体及び全国障害者スポーツ大会招致要望書を提出

### 2 島根県の動き

- ・9月3日 県体育協会理事会、評議員会で国体招致要望を決議
  - ・9月10日 県体育協会・県障害者スポーツ協会が、知事・議長・教育長へ国体及び全国障害者スポーツ大会招致要望書を提出
  - ・9月13日 知事が、県議会の自民党会派代表質問に対する答弁で、2029年国体及び全国障害者スポーツ大会招致の意向を表明
  - ・9月26日 県議会で、2029年国体及び全国障害者スポーツ大会の招致を決議（全員発議、全会一致）
- 島根県では、市町村との調整が済み次第、文部科学大臣、日本スポーツ協会へ開催要望書を提出する予定。

### 3 島根県とのこれまでの協議内容

#### ○平成27年8月 島根県との協議（県教育委員会）

- ・共同開催に係るメリット・課題等を島根県との間で確認した。

〔  
    メリット…施設整備費や大会運営費の軽減、市町村の負担軽減、宿舍や競技役員確保の容易性 等  
    課題…開閉会式の決定が困難、実施競技の会場決定が困難、両県とも、天皇杯の獲得が困難 等  
〕

※以降も、両県体協・競技団体等の意向を共有するとともに、今後の進め方について意見交換を積み重ねてきたところ。

#### →9月30日 鳥取県議会9月定例会 伊藤（保）議員一般質問

（知事）準備期間を考えると、後世に向けて結論を出すべき時期は私の任期中と考えている。

共同開催については、経費や人材確保の面では有利だが、各々の地域でのスポーツ振興など色々課題もあるとの指摘もある。利害得失があり、冷静に考えなければならない。

#### ○平成29年8月 鳥取・島根両県知事が面談

- ・2巡目国体の両県相互協力による開催の考え方について話し合い。

#### →10月3日 鳥取県議会9月定例会 藤縄議員一般質問

（知事）両県とも財政力が豊かでない。ただ、完全な共同開催がいいかということ、スポーツ関係者の思いもある。そうであれば共同開催ではなく施設を相互に融通しあう協力開催で行えないかと話し合い、溝口知事とも考え方に差異はなくなった。

#### ○平成30年4月 島根県との協議（政策企画局）

- ・島根側は早期に招致を進めたい意向。両県で情報共有を図りながら準備を進めていくことを確認。

#### →6月28日 鳥取県議会6月定例会 藤縄議員一般質問

（知事）最後の平成45年を大トリで務めるのもいい。議会とも相談しながら判断したい。後々の準備がしやすくなるよう、今年度中に決めるのが望ましい。

#### ○平成30年9月 島根県との協議（政策企画局）

- ・お互いに不足する競技施設を融通し、開催県の人員で競技運営を行うことを基本とし、引き続き協議を進めていくことを確認。

#### →9月20日 鳥取県議会9月定例会 斉木議員代表質問

（知事）体育協会や障がい者スポーツ協会の考え方によって開催時期を判断するのが妥当。県議会のご意見を承り、それに基づき2033年国体、障害者スポーツ大会を招致する方向でまとめるべき。

#### 9月25日 鳥取県議会9月定例会 伊藤議員代表質問

（知事）できるだけ早く決めてほしいとの競技団体の声、市町村を含めた財政負担の問題、人材協力の可能性など調整しながら準備を進めていく必要があり、協力開催の中身を島根県と具体化させていく必要がある。本県がテーブルにつかないというわけにはならない。